

アジアの経済成長から、栃木県の活性化を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾の塾長林明夫です。今年もどうかよろしく願いいたします。

先週の3日にもこの番組があったのですが、時間の変更で午後の放送になりましたので、今年初めてご挨拶させていただく方もいらっしゃると思います。

今年はどうのような年かという、世界的にイみても経済絶好調、これ以上ないというくらいに世界の経済状況はよいということ、いろいろな所に行き感じました。特に中国です。皆さんも驚くと思いますが、去年の10月に中国に行き11月にあった北京の会議に出た時に聞いたのですが、ゴールドラッシュという言葉はまさに中国の経済を指していると言う方がいらっしゃいました。カンフレンスボードという、私もメンバーになっているアメリカのシンクタンクの代表の方が来て、今や中国はゴールドラッシュであると話されていたのを聞いて驚きました。本当か確認したところ、その通りだということでした。

インドも、ものすごい勢いで成長をとげています。インドの歴史始まって以来の好景気です。インドと中国がくくと、インドは10億人、中国は13億人ですから、計23億人になります。昔はあまり仲がよくな、いつ戦争が起こってもおかしくない状況が一時ありました。しかし、今はそうではなく、ほとんど新聞には出でいませんが、中国とインドは自由貿易協定を結ぶ直前までできています。私はその話し合いの場の近くにいたのでよく分かりますが、そのくらい仲がよくなっていました。経済の面で、非常に密着しています。

それから、ASEAN といひまして、インドネシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ラオス、ミャンマー、マレーシアなど、10か国が東南アジア諸国連合というものを作っていますが、この中でも自由に貿易をしようということで経済成長がすさまじいですね。アジアの歴史始まって以来のすばらしい経済成長を遂げ、人々の生活もこれまでで最もよくなっています。これがアジアの現状です。5億人を擁するASEANの国と中国とインドが一緒になると、10年たたないうちにそうなると言われていますが、28億人が自由に経済活動のできる状況になります。これに日本と韓国、台湾などがつくるとだいたい30億人の1つの固まりができる、これが2010～2015年の状況になります。それを睨んで、今ものすごい勢いで国際化の波が押し寄せています。

では、栃木県はどうするのかということで、知事の談話が1月6日の下野新聞と他の新聞に出ていました。それによると、国際化推進戦略会議というものを設置するということですが、これは時宜にかなったことだと思います。また、国際競争力のあるいろいろな物を作ると言うことですが、農業、林業も

これからは国際化の波にさらされます。価格の安い外国から入ってくるものに負けてしまうのではなく、栃木県の農産物を外国に輸出しようというくらいのつもりでやればいくらでも国際化は乗り切れます。外国からの安い価格のものに高い関税をかけて切り抜けようといった考えは通じなくなりました。外国から日本に対する批判・不満は、日本からの工業製品をほとんど関税なしで入れているのに、自国の農業生産物を自由に日本に輸出できないのは不平等きわまりないということで、非常に難しいものがあります。要するに、日本は自分のことしか考えていないといわれているのです。これは受けて立たなければなりません。農業関係者の方も一所懸命考えて、国際競争力の強い農業生産物を作っていただきたいと思います。栃木和牛として知られる大田原牛の話テレビで放映していました。このすばらしい大田原牛とまではいかないかもしれませんが、それを見習い、他の国際競争力のあるものを作っていただければ外国から農産物が入ってきて大丈夫かと思います。そのようなことに、徹底的に栃木県も企業・農業関係の方も徹底的に対応していただきたい。

また、二次産業を放っておくと、外国で安い物が作られてしまいます。中国では車が作られることになりました。栃木県は、自動車産業が日本一なのです。中部地方にもありますが、産業集積地としては日本で最先端の自動車産業が進んでいるところです。栃木県の経済は、今は非常にうまくいっていますがそれに安心してはいけません。できれば、自動車産業の次にバイオテクノロジーや宇宙航空機産業などを考えていただきたいと思います。栃木県は、大学の宇宙航空機学科を卒業し、就職する人が日本で一番の土地として一部で知られています。ですから、どのようにしたら栃木県で宇宙航空機産業をできるかを考えた方がよいですね。宇都宮大学はじめ、帝京大学、小山高専、足利工業大学などの工学部、あるいは高校の工業科に、宇宙航空機学科を設けていただき、子供たち、学生、大学院生も宇宙航空機の研究者や技術者として携わっていただきたい。そのようにやっていけば、自動車産業が中国にかなりシフトした後でも栃木県の工業が成り立つわけです。

一番大変なのは、サービス業の生産性が低いことです。これをどのようにしたらよいか、また、外国人をどのように入れたらよいかを、4月に、福田知事の御指導で開かれる栃木国際化推進戦略会議でも考えていただければと思います。

最後に、一つお願いがあります。足利銀行国有化で問題になっていることの一つは、観光地がなかなか大変なしょうきょうにあるということです。特に、1月から3月までのこの時期の観光地は非常に大変なので、栃木県民の方はできれば1か月に1回、日帰りでもよいですから、自分の行きたい温泉地や観光地などを訪れていただきたいと思います。川治や鬼怒川など、栃木県にはすばらしい所がたくさんあります。私も温泉が好きなので、1か月に1回あるいは毎週、日帰り温泉に行きたいと思っております。皆さんも、栃木県民として1か月に1回、栃木県内の温泉に行き、栃木県の観光地を活性化していただくようお願いいたします。いくらでもできることだと思いますので、「栃木県の方は1か月に1回、栃木県の温泉に行く」ことを実現していただきたいと思います。</DIV>